

中国貨幣の歴史

21 五代十国の貨幣③一閩、南漢の貨幣一

「閩」の貨幣



開元通宝・鉛銭



天徳重宝 (殷)



開元通宝・鉄大銭



永隆通宝・鉄銭

閩では、領内の銭貨不足に対応するため、鉛銭、鉄銭を铸造・発行した。「開元通宝」銘の鉛銭は、五代十国の諸国で銅銭の代わりに発行された鉛・鉄銭の中で铸造年代が最も古いとされている。また、鉄製の大銭「開元通宝」は1枚で銅銭二文相当、閩末期の「永隆通宝」は1枚で鉛銭100枚相当として通用させた。閩が分裂して領内に建国した殷でも鉄大銭「天徳重宝」が铸造・発行された。

「南漢」の貨幣



(銅銭)



(鉛銭)

乾亨重宝

南漢は、唐代以前より金銀が貨幣として流通していたが、小額貨幣である銭貨への需要の高まりに対応し、銅銭と鉛銭の「乾亨重宝」を铸造・発行した。当初、両者を並行通用させたが、交易の盛んな市街での銅銭の流出や退蔵を避けるため、市街（城内）では鉛銭、農村（城外）では銅銭と使用地域を制限した。なお南漢では、銅銭と鉛銭のみで、他の華南諸国にみられる鉄銭は铸造されなかった。

五代十国時代、華北の五代王朝や隣接する揚子江流域の諸国では銅銭（一文銭）が基本通貨とされたが、これより南方に位置する「閩」、「南漢」、「楚」では、銭貨需要が高まるなかで、銅原料不足などを背景に銅より地金価値の低い鉛、鉄を原料とする銭貨が主体となり、1枚で二文以上に相当させる「大銭」も铸造・発行された。

五代十国の時代（907～960年）、華北の五王朝と隣接する「前蜀」「後蜀」「南唐」など揚子江流域の国では、貨幣は銅銭（一文銭）が基本とされていた。一方、これより南方に位置する「閩」（909～945年、福建省福州〈国都：以下同じ〉）、「南漢」（917～971年、広東省広州）、「楚」（907～951年、湖南省長沙）では、銅より地金価値の低い鉛、鉄を原料とする銭貨が主体となり、また、1枚で二文以上に相当させる「大銭」と呼ばれる銭貨も発行された。

唐代における銅銭「開元通宝」の流通は先進地域であった華北に集中し、分裂に向かう唐末においても、銅銭流通量は華中から華南へと華北より離れるほど少なかったとされる。しかし、揚子江より南の地域では、唐代半ば以降、穀物、塩、茶などの農業生産力が向上し、陶磁器産業の発展や海外貿易の盛行とともに、銭貨需要も増大していった。こうしたなかで、閩、南漢、楚といった諸国では、銭貨の新鑄を迫られていたが、銅銭の鑄造は銅原料が不足し、鑄造のための財政負担が大きく困難であった。このため、地金価値が低く原料確保が容易であった鉛や鉄の銭貨を鑄造せざるを得なかった。

閩は、華南の東南海岸沿いの小国で、対外貿易を財政基盤としていた。初代・王審知は、銭貨不足への対応のため、「開元通宝」銘の鉛銭を鑄造・発行した。この鉛銭は、五代十国の諸国で銅銭の代わりに発行された鉛・鉄銭の中で鑄造年代が最も古いとされている。また、鉛より地金価値が低い鉄を原料とする大銭も鑄造・発行し、この大銭1枚を「開元通宝」など銅銭二文（2枚）相当として流通させた。これら鉛・鉄銭の鑄造は、銅銭鑄造に伴う財政負担を回避すると同時に、鉛銭などを市中に供給することで、わずかに流通していた銅銭を政府に集中させる意図もあったとされている。もっとも、王審知が蓄えた銅銭はその死後に散財され、財政の窮乏を招いたため、1枚で開元通宝・鉛銭100枚に相当させる鉄銭「永隆通宝」を鑄造・発行するに至った。その後、閩は混乱から分裂し、領内に建国された「殷」で鉄大銭「天徳重宝」（鉛銭100枚相当）が鑄造・発行されるが、ほどなく「南唐」と「呉越」（907～978年、浙江省杭州）に分割、併合される。

南漢は、南岸の広東、広西に位置し、勢力は一時ベトナム北部にまで及んだ。この嶺南地域では、唐代以前より西方・南洋交易の影響から金銀が貨幣として使われ、唐代には華北から嶺南への銅銭流出が禁じられたこともあり、銭貨の流通は少なかった。小額貨幣である銭貨需要の高まりに対し、南漢は銅銭と鉛銭の「乾亨重宝」を鑄造・発行し、当初は両者を並行して流通させた。しかし、銅銭が市中から姿を消してきたため、城壁に囲まれた市街では鉛銭を、それ以外の農村などでは銅銭を使用させ、銅銭と鉛銭の出入りを禁止し、これに違反した者は死刑に処した。これは、交易が盛んで富豪も多い市街では鉛銭のみ流通させ、銅銭の流出や退蔵を回避するもので、既に楚で実施されていた政策を模したと考えられている。なお南漢では、銅銭、鉛銭のみで、鉄銭は鑄造されなかった。

【山岡直人、日本銀行金融研究所貨幣博物館】

【参考文献】

- 日野開三郎、『日野開三郎 東洋史学論集 第2巻 五代史の基調』、三一書房、1980年
宮崎市定、『宮崎市定全集 第9巻 五代宋初の通貨問題』、岩波書店、1992年
宮澤知之、『中国銅銭の世界—銭貨から経済史へ—』、思文閣出版、2007年
山岡直人、「中国貨幣の歴史 19 五代十国の貨幣①—華北・五代王朝の貨幣—」、『金融研究』第26巻 第3号、2007年
———、「中国貨幣の歴史 20 五代十国の貨幣②—南唐、前蜀、後蜀の貨幣—」、『金融研究』第26巻 第4号、2007年